講義科目名称: 木質構造 A4-C44-30 科目コード: 20410

英文科目名称: Timber Structure

開講期間		配当年	単位数	科目必選区分	
3年後期		3	2	選択	
担当教員					
小林 研治					
添付ファイル		- '			
講義概要	木質構造		材や木質材料につ	ついて学ぶとともに、木質構造の各種構工法の特徴、構造計画上の留	
时我网女	意点、音	、部材および接合部の設計方法について学ぶ。			
授業計画	1	建築構造	の種類と特徴につ	位置づけと建築学科カリキュラムに対する位置づけの説明。 いて説明する。	
	2	教科書P1- 在来軸組	-6を読み、木質構 構法と枠組壁工法	造の定義について説明できるようにする。 : :について説明する。	
		[準備学習	']	触組構法と枠組壁工法それぞれの特徴について説明できるようにする。	
	3			の部材名称および相違点の説明(AL③)	
		[準備学習	!] -29を読み、木質	工法について説明する。  プレハブ構法、丸太組構法、大断面木造それぞれの特徴について説明	
	4	樹木と木材 樹木と木材 [準備学習	オ オの特徴について !]	説明する。 :率の定義、膨潤・収縮の異方性について説明できるようにする。	
		[課題] 木材の特征	- 39を読み、音が 数を説明、含水率		
	5	[準備学習	<b>!</b> ]	ついて説明する。	
	6	木質材料	┣-49を読み、規準 の種類と特徴につ	材料強度の大小関係について説明できるようにする。	
		[準備学習	<u>'</u> ]	対料の種類と製造方法について説明できるようにする。	
	7	P64の第2章 構造計画	章問題類題(AL③)		
		[準備学習		で説明する。 「構造における構造計画上の留意点について説明できるようにする。	
	8	荷重・外 荷重・外 「準備学習	力と応力組み合わ	かせについて説明する。	
		教科書P87 [課題]		長期、中短期の応力について説明できるようにする。   開 (AI ③)	
	9	引張材・月 引張材・月 [準備学習	圧縮材 圧縮材の設計につ ']	いて説明する。	
	10	曲げ材	<b>设計について説明</b>	·容座屈応力度の算出方法について説明できるようにする。  する。	
		教科書P13 [課題] P143の例類		り欠きと有効断面積、有効断面係数について説明できるようにする。	
	11	[準備学習			
	12	壁量計算 壁量計算	の手順と誘導根拠	け力壁の役割、壁倍率の加算則と上限について説明できるようにする。 ないて説明する。	
		[準備学習	<u>'</u> ]	量計算、4分割法の手順について説明できるようにする。	

	T			
	13   継手と仕口の設計の基本   接合具の種類と、継手仕口の設計上の留意点について説明する。			
	[準備学習]			
	教科書P253-267を読み、種類の異なる接合具を併用してはならない理由について説明できるようにする。			
	14 接合部の許容耐力の算定 なんがの恋ながらの第二人の第二人の第二人の第二人の第二人の第二人の第二人の第二人の第二人の第二人			
	接合部の許容耐力の算定方法について説明する。 [準備学習]			
	教科書P267-292を読み、ボルト接合部の耐力計算手順について説明できるようにする。 [課題]			
	P304の第8章問題類題(AL③) 15 演習と解説			
	これまでの内容を踏まえた問題演習と解説を行う。			
	[準備学習] これまでの学習内容を復習する。			
	16 定期試験			
授業形態	講義および演習			
<b>授耒形態</b>	アクティブラーニング:①:0回,②:0 回,③:7 回,④:0 回,⑤:0 回,⑥:0 回			
達成目標	1. 木材と木質材料の種類と特徴を説明できる。(基本) 2. 木質構造の構工法の種類と特徴を説明できる。(基本)			
	3. 荷重と外力の算出方法、応力組み合わせを説明できる。(基本)			
	4. 壁量計算により木造住宅の水平力に対する安全性の確認ができる。 (標準) 5. 部材の許容応力度計算、接合部の許容耐力計算を手順に沿って実行できる。 (標準)			
評価方法・フィー	6. 与えられた条件をもとに、部材や接合部の検定ができる。(応用) 課題(30%)と、定期試験(70%)で評価する。課題については締切後に講義内で解説を行う。			
ドバック				
評価基準	秀(1~6):90 点以上、優(1~5):89~80 点、良(1~4):79~70 点、可(1~3):69~60 点、不可:59 点以下			
教科書・参考書	木質構造 第4版 (建築学の基礎 1) : 杉山英男編著、共立出版 その他、随時配布する			
履修条件	常識ある真摯な学ぶ姿勢を持合わせていること。			
履修上の注意	講義には必ず出席すること。			
準備学習と課題の 内容	授業計画に記載されている「準備学習」(1.5時間)を行うこと。 授業後に復習(1.5時間)を行うこと。授業計画に「課題」が記載されている回は、復習の一環として課題を 実施すること。			
ディプロマポリ シーとの関連割合 (必須)	知識・理解:50%, 思考・判断:20%, 関心・意欲:10%, 態度:10%, 技能・表現:10%			
DP1 知識・理解				
DP2 思考判断				
DP3 関心意欲				
DP4 態度				
DP5 技能・表現				
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·				